

D-1 GRAND PRIX Rd.2 in SUGO MOTULはオイル開発の新たなテストの場としてD-1へ (4/29-30)

4月29日、30日と宮城県仙台市のスポーツランド菅生にて、D-1 グランプリ Rd.2と、D-1 ストリートリーガルのRd.3が行われました。

今年からMOTULはオイルの開発の為、NISMOがサポートしている、昨年のチャンピオンマシン「#1 シルビア S15」に技術協力という形でサポートを始めました。

アメリカ、カリフォルニアのアーウィンデール・スピードウェイで行われた第1戦では#1の風間選手が見事優勝を飾りましたが、今回は1回戦で100点満点を出すなど好調だったにもかかわらず、ベスト16で予想外の敗退。スピードでも他を寄せ付けない165km/hを出し、迫力のドライビングを披露していただけに残念。次戦に期待したい。

1回戦で16台に絞られた後、2台ずつの追走でトーナメント方式で決着をつける為、あちこちで番狂わせが発生。結局最初から好調だった スカイライン (ER34)の#6野村謙選手が1年ぶりの優勝を決めました。

D-1って?

D-1とはドリフト走行のカッコよさを勝敗を決める競技です。ドリフトとは後輪もしくは4輪を滑らせながら走る走法。タイムを競うのではなく、カッコよさ、つまりコーナーへの進入スピード、ライン、ドリフト中の角度、迫力などから審査員が勝敗を決めていく。

審査員は土屋圭市と鈴木学、両氏。予選、1回戦は単走による採点で、本番走行は通常3本。1回戦では最高得点の高い順に16名のみが追走トーナメントに出場できる。追走トーナメントでは対戦する2台が、先行と後追いを入れ替えて計2本で勝負。先行は後追いを引き離せば勝ち、後追いは先行のインに入れば勝ち。アンダーステアやスピンがあれば大幅減点となり、2本で勝負がつかない場合はサドンデスでの決着となる。

マシンはAE86やシルビアS15などが多く、600hpオーバーのマシンも多く、エンジンはトップチューナーでも安全マージンよりもパワー重視。#1の藤岡監督も、ハラハラしながら見ているとか。LSDへの負荷も高く、オイルの使用状況は過酷。来年からはD-1ストリートリーガルをD-1全日本戦、D-1 GPをD-1世界戦と位置づけ展開する予定。迫力のあるガチンコ勝負に、これからも益々D-1人気は高まりそうだ。



#1 風間靖幸選手 シルビアS15



#1の監督兼チューナーの 藤岡氏



#31 RX-8



#39 AE86



グランドスタンドより